

緑陰通信

News from the shade of trees

目次

- 「みどりの図書館フェスタ」レポート … P2
- 秋の「読書週間」関連特別展示レポート
- 県立図書館トピックス … P3
- コラム「本に生命を吹き込んだ
イラストレーター 生頼範義氏」
- 県立図書館からのお知らせ … P4

※緑陰通信は県立図書館のホームページ
(<http://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>)からもご覧いただけます。



祝 新館30周年記念式典



宮崎県立図書館は、明治35年(1902年)5月に公立図書館としては九州では最も早く、全国でも京都府立、秋田県立について3番目に創立されました。以来116年の歴史においてさまざまな変遷を乗り越え、昭和63年(1988年)5月に置県100年記念の「県総合文化公園構想」に基づく初めての施設として、現在地に「新館」が開館しました。

今年は、新館のスタートからちょうど30年となる節目の年です。これを祝賀する行事として「新館30周年記念みどりの図書館フェスタ」を10月6日(土)に開催し、そのなかで「新館30周年記念式典」を盛大に行いました。



年	県立図書館の主な動き
1988(昭和63)	5月 新館落成・開館記念式典
1998(平成10)	3月 マイライン全市町村と接続
2002(平成14)	11月 県立図書館創立100周年記念式典
2004(平成16)	6月 「ビジネス情報コーナー」開設
2006(平成18)	4月 新運営方針「人づくりと地域づくり」に役立つ図書館～Live!Library～を策定
2008(平成20)	2月 「健康情報コーナー」設置
2010(平成22)	3月 「アメリカンシェルフ」オープン
2012(平成24)	1月 ルース駐日アメリカ大使と河野知事による「英語の絵本の読み聞かせ会」 12月 「かば先生文庫」開設
2013(平成25)	4月 歌人・伊藤一彦氏 名誉館長にご就任 置県130年記念特別展「宮崎県誕生」 6月 次世代につなぐ「みやざきの言の葉」継承事業(語り部養成講座等)開始
2015(平成27)	4月 日曜・祝日の開館を午後5時から午後7時へ延長 「日本一の読書県づくり」プロジェクト開始
2016(平成28)	3月 移動図書館車「やまびこ」号廃止 4月 新マイラインサービス開始 6月 「やまびこ文庫」開始 11月 県立図書館ビジョン懇談会が「これからの宮崎県立図書館について」を提言
2017(平成29)	6月 若山牧水主宰「創作」878冊の寄贈受入 10月 名誉館長講演会「若山牧水と創作」 12月 「宮崎県立図書館ビジョン」策定
2018(平成30)	3月 宮崎県立図書館ビジョン「第1期アクションプラン」策定 4月 宮崎大学との連携協力に関する協定締結

たくさんのご来賓やご観覧の方々にお集まりいただいた式典は、県立宮崎西高等学校の中百合子さんによる「宮崎県立図書館の歌」と「白鳥の歌(若山牧水)」の独唱で格調高く始まりました。

会場内が静かに聴き入った感動的な歌声のほか、宮崎県教育長の式辞や、当館に大きく貢献のあった方への感謝状贈呈、当館館長による「新館30周年のあゆみ」の報告などがあり、和やかなムードに包まれながら式典後半の伊藤一彦名誉館長記念講演と、語り部 竹原由紀子氏の民話語りへと続きました。

この式典を見届けて、当館の歴史に関わった先人たちの努力と現在のみなさまの支えがあつての県立図書館であることを実感しました。この誇りある県立図書館を、将来の世代に胸を張って引き継いでいければと思います。





宮崎県立図書館 みどりの図書館フェスタ



好天に恵まれ、さわやかな秋晴れとなった10月6日(土)、県立図書館では「新館30周年記念 みどりの図書館フェスタ」を開催しました。オープニングの「新館30周年記念式典」から各種イベント・プログラムまでたくさんの方がお越しになり、心ゆくまでお楽しみいただきました。

今回の目玉のひとつは、「本で世代をつなぐ～私のすすめるこの1冊～」と題し、大口玲子先生(若山牧水賞受賞歌人、都城市在住)をメインキャストに迎えて読書の素晴らしさを語り合うトークセッションでした。

その前段として、中学生・高校生・一般の方を対象に、中高生に伝えたい「おすすめの本」を募集。約1,500名もの応募があり、その中から選ばれた各世代2名ずつの代表者がこのステージで本の魅力や感想、体験などを発表し、大口先生とトークを交わしました。



部門	氏名	図書名	著者名	出版社名
中学生	山本怜奈さん	世界地図の下書き	朝井リョウ	集英社
	堀川大翔さん	黒い兄弟(上・下)	リザ・テツナー	あすなろ書房
高校生	岩切望東子さん	白い人・黄色い人	遠藤周作	新潮社
	岩見朱玲さん	最後の医者は桜を見上げて君を想う	二宮敦人	TO文庫
一般	木村昌夫さん	あきない世傳 金と銀	高田郁	角川春樹事務所
	小川理智子さん	日本国憲法を口語訳してみたら	塚田薫	幻冬舎

観覧された方からは大きな反響があり、

- 6名それぞれの本から得た学びや考え方、価値観などを知ることができた。
- 世代によって選択する本の違いも知れて面白かった。自分も読んでみようと思った。
- 中・高校生の発表は「読書は人を作る」のだと改めて知るきっかけとなった。
- 一冊一冊の本に感動があり、知識を与えてくれる。これからも読んでいきたい。



などの感想をいただきました。

発表者に対する問いかけやフォロー、話の流れの整理など、大口先生による細やかな進行で会場内は笑いや歓声に包まれ、「良書が世代を超えて読み継がれていく」ことが心に刻まれていきました。

フェスタでは、このほか図書館見学ツアーや工作体験、読み聞かせなども賑わいを見せ、「読書の秋」を盛り上げる一日となりました。ご来館いただいたみなさまをはじめ、ご来賓、ご出演の方々も、誠にありがとうございました。

■秋の「読書週間」関連特別展示レポート

10月23日(火)から11月11日(日)までの約3週間、県立図書館1階ギャラリーにて、「本で世界を旅しよう」と「わたしのホッと一息つける一冊」の2つのテーマ展示と、同じく児童室前ロビーにて、県立図書館の各種サービスや行事などを解説するパネル展示を行いました。

本は「どこでもドア」。ページをめくれば世界のいろいろな国を訪れることができます。「本で世界を旅しよう」では、世界各国の童話絵本や暮らし・文化の本、それぞれの国で出版された本などを紹介しました。



また、「わたしのホッと一息つける一冊」では、利用者のみなさまや当館の職員が「イチオシ」する本を紹介しました。葉っぱ型のカードに手書きして、大きな木の幹に見立てたボードに貼るといったアイデアの展示で、木の幹にたくさんの葉っぱが茂っていました。

自分の気持ちに寄り添ってくれたり、知らなかった気持ちにさせてくれたりと、本はあなただけの心の友になります。ぜひたくさんのお本と出会い、本の世界を楽しんでいただきたいです。

県立図書館トピックス

■優良読書団体の紹介

(公社)読書推進運動協議会では、毎年「読書週間」行事の一環として、全国の読書グループの活動奨励のため各県の推薦を受け、優良読書グループを表彰しています。

宮崎県ではこのたび、延岡市で活動する読書会「牧水を旅する」が、受賞されました。

読書会「牧水を旅する」は、郷土が生んだ偉大な歌人 若山牧水の紀行文を読み、実際に牧水の足跡をたどることで牧水の生涯や歌の詠まれた背景を知ろうと、平成16年にスタートした団体です。

この読書会の活動が実を結び、平成18年には延岡版「牧水歌がるた」が作成されるとともに、それを普及するために「延岡牧水歌がるたの会」が結成されました。

代表者の九鬼勉さんは、牧水の名を冠する短歌研究会「牧水研究会」が企画編集する雑誌『牧水研究』に平成18年の創刊当初から現在まで牧水に関する記事を寄稿し続けておられます。今後は、紀行文の朗読会なども行いたいとお考えで、熱心に活動されています。

市民の生涯読書につながるこれらの取組は、まさしく奨励に値するもので、今後ますますのご活躍が期待されます。



■緑陰コンサートをさわやかに開催!



11月4日(日)、今年度第3回となる「緑陰コンサート」を開催しました。今回は、五ヶ瀬町を拠点に活動する吹奏楽団「G音楽たい」のみなさんによる屋外の吹奏楽コンサートでした。

秋晴れのもと、さわやかな空気と少し色づいた緑に囲まれて演奏がスタート。子ども向けから大人向けまで多くの方に親しまれている幅広い選曲と、メンバーの気さくなトークで、会場の雰囲気はすぐにほぐれていきました。今流行の「USA」という曲がかかると、手を振って楽しむ方も。

G音楽たいは、音楽の普及活動としてコンサートでの楽器の演奏体験も取り入れています。今回は、サクソやトロンボーンなどの体験タイムがありました。

はじめは音が出なかった参加者も、コツをつかむと大きな音が出て、会場からは「おー!」と歓声が上がっていました。

また、コンサート途中では、県立図書館男性職員の読み聞かせや、今年度の「語り部養成講座」受講生による民話の語りも行われ、バラエティ豊かなステージとなりました。

コラム 「本に生命を吹き込んだイラストレーター 生頼範義氏」

本が並べられた前を通りかかったときに、作家名や作品のタイトルではなく、表紙のデザインや挿絵に惹かれてその本を手にとったという経験はありませんか。

右の絵は、昭和47年(1972年)に早川書房から出版されたハードカバー版『復活の日』の表紙絵です。これを見た原作者の小松左京氏は、興奮のあまり早川書房に「あの絵、描いた人、日本人? うそだろう? 外国のSF画家じゃないの?」と電話で問い合わせたとか。このことは、今でも伝説のように語り継がれています。

生頼氏は、昭和48年から宮崎に移り、この宮崎を拠点にして圧倒的な画力で本に生命を吹き込んできた、日本を代表するアーティストです。手がけた装画は生涯に1,500点超。それらは、いずれも素晴らしい表現力で描かれていると同時に、作品の本質を見事に捉えています。

県立図書館では、10月20日~11月25日の期間、生頼氏の代表的な作品などをご紹介する特別展を実施しました。表紙のデザインや挿絵をじっくりと眺めてから本を手にとってみるのも、本を楽しむ方法のひとつではないでしょうか。



© 生頼範義「復活の日」(小松左京) 早川書房 1972年

県立図書館からのお知らせ

■新着図書の案内コーナー

閲覧室



『原寸大写真図鑑 羽 増補改訂版』

叶内拓哉・高田勝／著（文一総合出版）

日本で見られる281種の鳥の羽を原寸大の写真で紹介した写真図鑑で、『原寸大写真図鑑 羽』（2004年2月発行）の増補改訂版。鳥の種類を前版から新たに29種追加、羽の部位や枚数も大幅に増やし写真はすべてを撮り直しで64ページの増。総合文化公園や神宮の森で拾った羽を片手に図書館でこの図鑑を開いてみるのもおもしろいと思います。

児童室



『佐藤初女物語 おむすびに心をこめて』

あんずゆき／著（PHP研究所）

佐藤初女さんは、当時治らないと言われていた病を、薬にたよらず食事療法により克服します。「食べることはいのちをいただくこと」を身をもって学んだ初女さんは、悩みの相談に来た人に、心をこめておむすびをにぎり、いっしょに食べて、話を聞いてあげます。誰でも心安らげ、元気になれる場所「森のイスキア」をつくり多くの人に慕われました。

郷土資料室



詩集『ここで暮らす』

福元久子／著（宮日文化情報センター）

生きることへの優しいまなざしやふるさとへの想いを巧みな比喻でリリカルに描いた詩集です。宮日芸文欄に掲載された作品や同人誌に発表した作品など51編が収められています。なかでもふるさとへの想いをテーマにした作品は美しい音楽のように郷愁を伴って心に響きます。表紙は画家「貴嶋ユミ」氏「霧島の風景」。

■「語り部のつどい」を開催します



平成31年1月13日（日）、県立図書館2階研修ホールにて「語り部のつどい」を開催します。

県立図書館では、神話・民話の普及・啓発と、宮崎の言語文化の継承に資するため「未来へつなぐみやぎきの神話・民話継承人財育成事業」に取り組んでいます。語り部のつどいは、その取組のひとつである「みやぎきの神話・民話講演会」や「語り部養成講座」の受講生による語りを行い、親睦や技能向上を図る催しです。

今回は、広く募集した、宮崎の神話・民話がテーマの黑板アート作品も披露します。

どなたでも無料で入場できますが、事前の申し込みが必要です。お問い合わせは、県立図書館普及支援担当（電話0985-29-2956）まで。たくさんのご参加をお待ちしています。

■「やまびこ文庫」紹介パネル展を開催します

移動図書館車「やまびこ」号にたくさんの本を積んで県内の巡回を開始したのが昭和29年1月。長い歴史ののち、平成28年6月からは宅配便を利用して町村立図書館・室や山間部の小中学校・特別支援学校等に本を配送する「やまびこ文庫」にバトンタッチしました。

今回のパネル展では、やまびこ文庫の詳しい解説に加えて、やまびこ文庫を利用している町村や学校のPR、寄せられたメッセージの紹介など、さまざまな情報を発信します。期間は、12月26日（水）から翌1月14日（月）までです。お待ちしております。



県立図書館屋根防水工事のお知らせ

県立図書館では、施設の老朽化対策を目的とした屋根防水工事を行っています。工事期間中、ご利用のみなさまにはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力のほどお願いします。

工事期間 平成31年2月19日（火）まで



県立図書館の資料の購入には、宝くじの収益金の一部が使われています。 宮崎県

ご利用案内

- 開館時間 ■一般閲覧室：9:00～19:00
■児童図書室：9:00～17:00
- 休館日 ■毎週月曜日（祝日の場合翌日）
年末年始：12/29～1/4
特別整理期間：2/18～2/25

編集・発行

● 宮崎県立図書館

- 所在地 ■〒880-0031 宮崎市船塚3丁目210番地1
TEL ■0985-29-2911（総務・企画課）
FAX ■0985-29-2491（総務・企画課）
HPアドレス ■<http://www2.lib.pref.miyazaki.lg.jp/>

